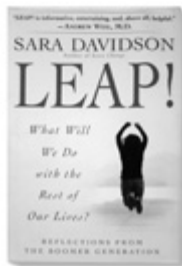


必読の一冊

大きく飛躍を！——残りの人生をどう生きるか

大迫 政子

ILCアライアンス 事務局長



『LEAP!』

サラ・デビッドソン著
 ニューヨーク ランダムハウス
 2007年

アメリカには1946年から64年の間に生まれた7,600万人のベビーブーマーがいる。その中で最も年長の人たちが60歳を迎えた今、彼らは身体的な衰え、子どもの独立、定年退職などライフステージの変化に直面している。つまり、自分自身のアイデンティティ（身体能力があり、親であり、働き手であること）の喪失感を感じ始めているのである。メディアは「気楽な老後」を喧伝するが、引退後、現実の生活に直面した多くのベビーブーマーの前に横たわるのは、「残りの人生をどう生きればいいのか。何をすれば澆刺とした気分であられるのか」という問題である。この本は、こうした問題への解決の糸口を探る重要なヒントになると米国メディアで話題となり、ハリウッドでテレビドラマ化の話も進んでいる。

フリージャーナリスト、サラ・デビッドソンが57歳を迎えたそのとき、「引退後の生活」という問題は、大きな課題として彼女の目の前に迫ってきた。デビッドソンはこの問題にプロジェクトとして取り組み、150人のベビーブーマーにインタビューした。彼らは前進するために従来の生活の転換をはかっていた。方向転換の方法は一人ひとり異なる。よりドラマチックな行動に出る人も、逆に過去を懐かしんでばかりという人もいる。

ホノルルに住む引退した医者とその夫は、旅行をしたり伝統的なフラダンスを習ったりして老後を楽しもうと準備を整えていた。だが結局は、一時的な里親としてほんの数日だけ預かるつもりだった4歳の子を養子にすることになった。夫婦は「これまでの人生で一番楽しかったことはなんだったろう。私たちを一番幸せにしてくれたのはなんだったろうか」と自問した。答えは明らかだった。子どもを持ち、育てること。それなら、引退後もそれをすればいいじゃないか。

トム・ヘイドンはカリフォルニア州議員として18年間活躍した後、選挙で自分の半分の年齢の候補者に敗れ、その後心臓発作で倒れてバイパス手術を受けた。まさに「キャリアにプレーキがかかった」。ヘイドンは立候補をあきらめ、読書と執筆活動、政治家ではなく民間人として提唱することや教壇に立つことに焦点を移した。「だが、そのことで葛藤を覚えない日は1日もないね」と彼はいう。

デビッドソン自身にとって、この問題に対する答えが明確なかたちを取り始めたのは、インタビューしたあるベビーブーマーから「世界があと2日で終わるとしたら、何をしますか」と問い返されたときだった。彼女はベビーブーマーへのメッセージとして、マーク・トウェインの言葉を引用している。「今から20年後、悔いを残すのは実行したことよりも実行しなかったことに対してだ。さあ、舳舳を解き、安全な港から船を漕ぎ出そう」。

この本がアメリカでベストセラーになったのは、読者、特にベビーブーマーたちが、インタビューした150人の話に共感したからであり、さらには行動することを重視するアメリカにおいては、やはり行動をこそよしとする結論が文化的になじむものだからであろう。

では日本の読者がこの本から学べることはなんだろうか？ 現役時代に比べて引退後を、「より多くのオプションのある人生のステージ」とポジティブに捉えようとする考え方には賛同する人も多いはずだ。

長くなった寿命をさらに価値あるものとするにはどうすべきか、自問自答を繰り返す高齢者は洋の東西を問わずこれからも増え続けるだろう。そこに多くの人の体験と意見を盛り込んだこのような本の意義があるのかもしれない。

長寿社会グローバル・インフォメーション
ジャーナル

編集委員・編集作業部会員一覧（敬称略）

● 編集委員

森岡 茂夫

ILC-Japan 理事長

大塚 義治

日本赤十字社 副社長

木村 利人

恵泉女学園大学 学長

行天 良雄

医事評論家

伍藤 忠春

財団法人長寿社会開発センター 理事長

柴田 博

桜美林大学大学院 教授

袖井 孝子

お茶の水女子大学 名誉教授

田中 滋

慶應義塾大学大学院 教授

大迫 政子

ILCアライアンス 事務局長

● 編集作業部会

藺牟田 洋美

首都大学東京 健康福祉学部 准教授

大森 正博

お茶の水女子大学 生活科学部 助教授

菊池 馨実

早稲田大学 法学部 教授

渋川 智明

東北公益文科大学 公益学部 教授

関 ふ佐子

横浜国立大学大学院

国際社会科学研究所 助教授

鶴若 麻理

聖路加看護大学 助教

平野 順子

長岡大学 産業経営学部 専任講師

西平 賢哉

JETRO ニューヨーク 厚生部長

大迫 政子

ILCアライアンス 事務局長

● 事務局（ILC-Japan）

志藤 洋子

鹿嶋 真美子

大上 真一

斎藤 進

長寿社会グローバル・インフォメーション
ジャーナル

Volume 6 Autumn 2007

2007年10月10日発行

発行：国際長寿センター（ILC-Japan）

〒168-8510

東京都杉並区高井戸西1-12-1

TEL 03-5941-1031（代）

FAX 03-5941-1032

E-mail ilcjapan@miba.sphere.ne.jp

URL http://www.ilcjapan.org

発行人：森岡茂夫

編集：株式会社青丹社

印刷：大日本印刷株式会社

本誌掲載の記事・写真・図表等の無断複製（コピー）・複製・
転載を禁じます。

Cover Photo：Richard Schultz/Getty Images